

# 「子どもたちの教育環境について」アンケート調査から

山梨県PTA協議会・企画委員会

## 1 はじめに

今日、教育に対する新たな考えのもと教育関連法案の改正に伴い、制度、政策、施策などの導入が急で、子どもたちの教育環境は激しい変化の中にあります。山梨県PTA協議会企画委員会では、家庭・学校・地域の教育環境に対する保護者・教職員の考えなどをアンケート調査し、家庭教育・学校教育への理解を深め、さらなるPTA活動の充実のために役立てていきたいと考えています。

今年度は、「1. 子どもの能力（学力）についての意識」、「2. 保護者と学校とのコミュニケーション（情報の共有）についての意識」、「3. 学校の統廃合、学区再編について、保護者・教職員の皆さんの意識・動向」をアンケートいたしました。

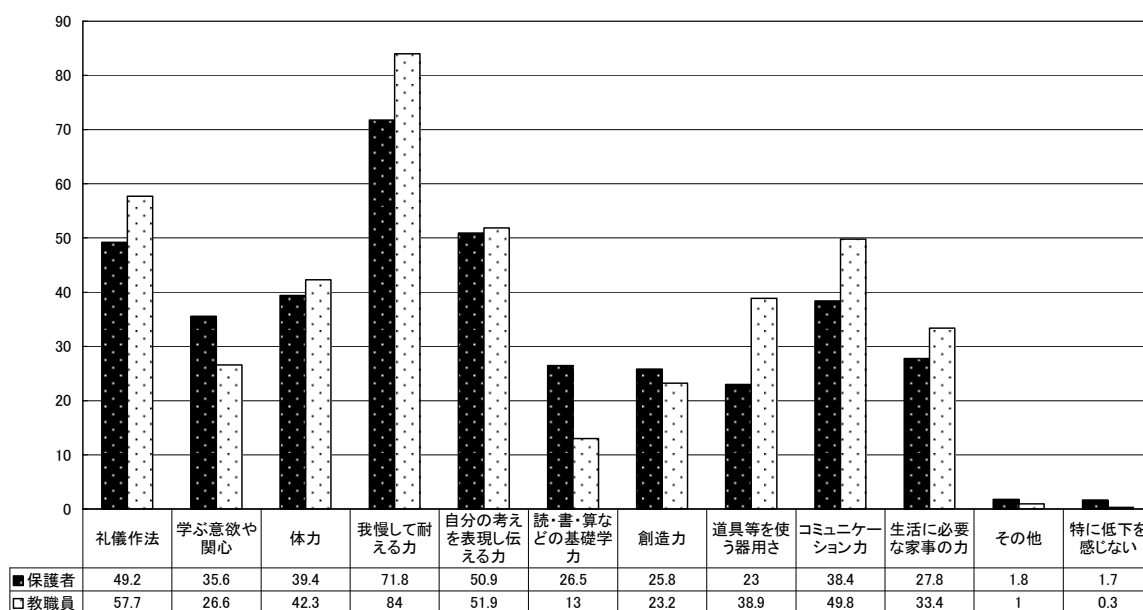
本調査は今年9月後半、県PTA企画委員所属の小中学校PTAを通じて、小学校5年生・中学校2年生の保護者823名、教職員293名の方々にご協力をいただきました。

## 1. 子どもの能力（学力）についての意識

【問1】 現代の子どもは、次のうちどのような「力」が足りないと感じますか。

1. 礼儀作法
2. 学ぶ意欲や関心
3. 体力
4. 我慢して耐える力
5. 自分の考え表現し伝える力
6. 読・書・算など基礎学力
7. 創造力
8. 道具等を使う器用さ
9. コミュニケーション力
10. 生活に必要な家事の力
11. その他
12. 特に低下を感じない

現在の子どもに足りない「力」について



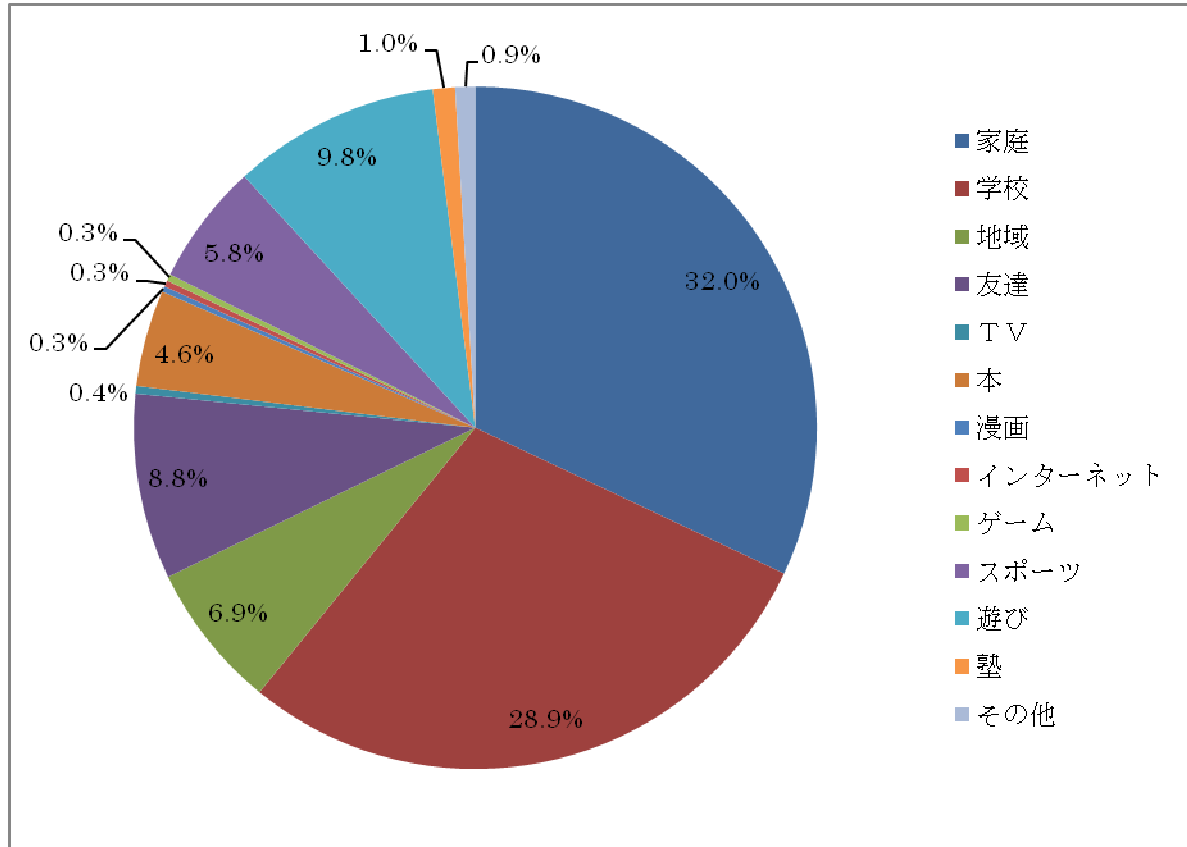
【考察】（提出グラフ外で小中対比も考察）

・「我慢して耐える力」が足りないと感じ保護者、教職員とも第1位に考えている。特に小学生にこの傾向が強い。

・また、体力に関しては小学生の方が強く不足していると保護者、教職員ともに感じている。

・保護者は学力関係に不足を感じる傾向があり、特に中学生の保護者にこの傾向は強く出ている。一方、教職員は礼儀や生活能力や総合的な人間力に注目し、それぞれ不足を感じている。

**【問2】** 前問で挙げた項目に対し、主に、どこで学ぶ事柄だと考えますか。

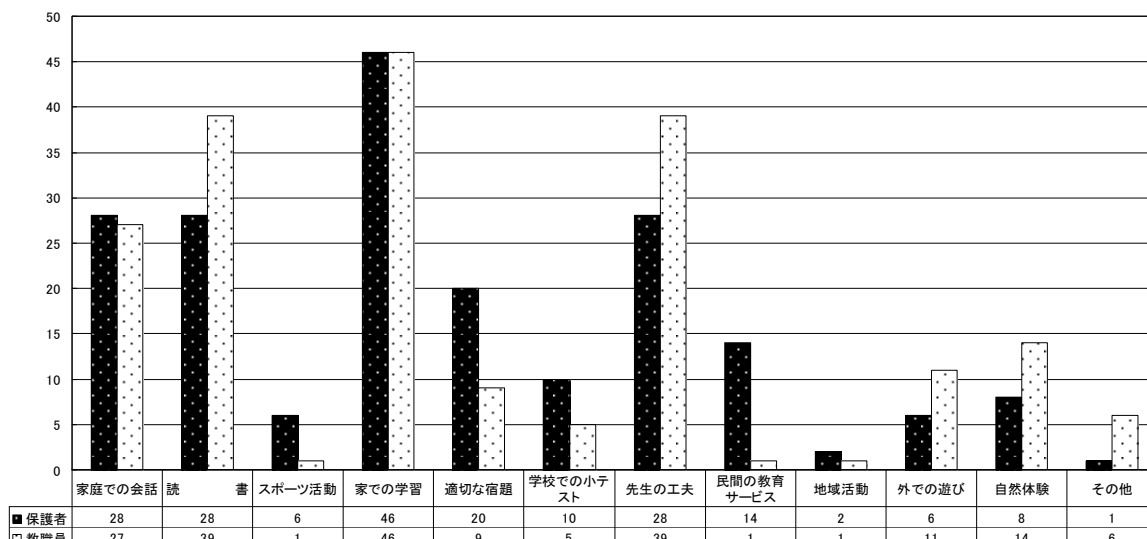


※選択が多い順 1位：家庭 2位：学校 3位：遊び 4位：友達 5位：地域

- ・教職員と保護者の回答率を比較すると教職員は家庭への回答率も高いが、学校への回答率も高い。
- ・保護者は友達とスポーツ活動への回答が教職員を上回っている。
- ・友達への回答は表現力やコミュニケーション能力への期待が高い傾向がある。

**【問3】** あなたは、子どもの学力を伸ばすためにはどのようなことが有効だと考えますか。

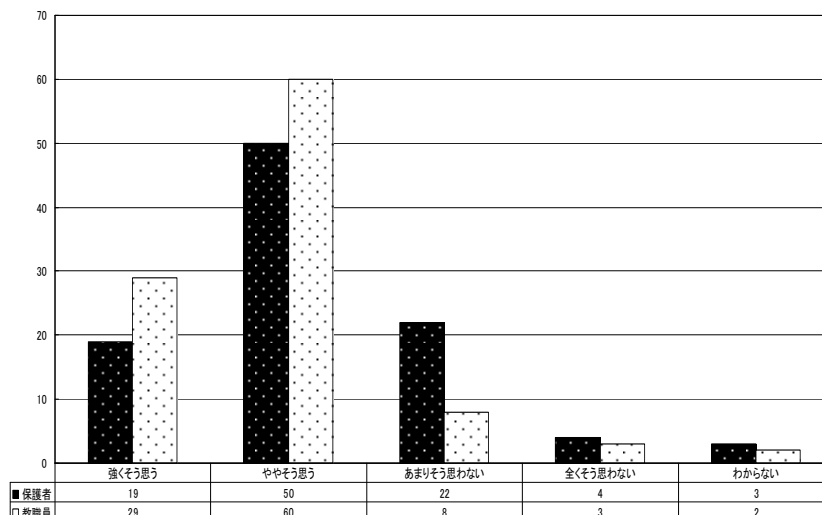
- |           |             |           |              |
|-----------|-------------|-----------|--------------|
| 1. 家庭での会話 | 2. 読書       | 3. スポーツ活動 | 4. 家での学習     |
| 5. 適切な宿題  | 6. 学校での小テスト | 7. 先生の工夫  | 8. 民間の教育サービス |
| 9. 地域活動   | 10. 外での遊び   | 11. 自然体験  | 12. その他      |



- ・「家での学習」が共に必要で第1位
- ・ 教職員は、「先生の工夫」が保護者と比較すると高く、同様に比較で差があるのは「遊び」、「自然体験」。
- ・ 保護者は、塾、宿題、テストを多くする、など外部へ依存の傾向が強い。
- ・ 地域教育力への期待値が低く、地域活動が軽視されていると考えられる。

【問4】子どもの学力は、親の経済力・学歴・教育への熱心さなどに、大きく左右されているのではないかと議論がありますが、あなたはどのように思いますか。

1. 強く思う
2. やや思う
3. あまりそう思わない
4. 全くそう思わない
5. わからない



- ・ 親の教育への熱心さを中心に教職員の方が保護者よりも影響が大きいと感じている。
- ・ ここまでの回答と総合して検証すると、教職員は経済力（民間教育サービスへの回答が低い）ではなく、教育の熱心さへの違いを感じていると思われる。

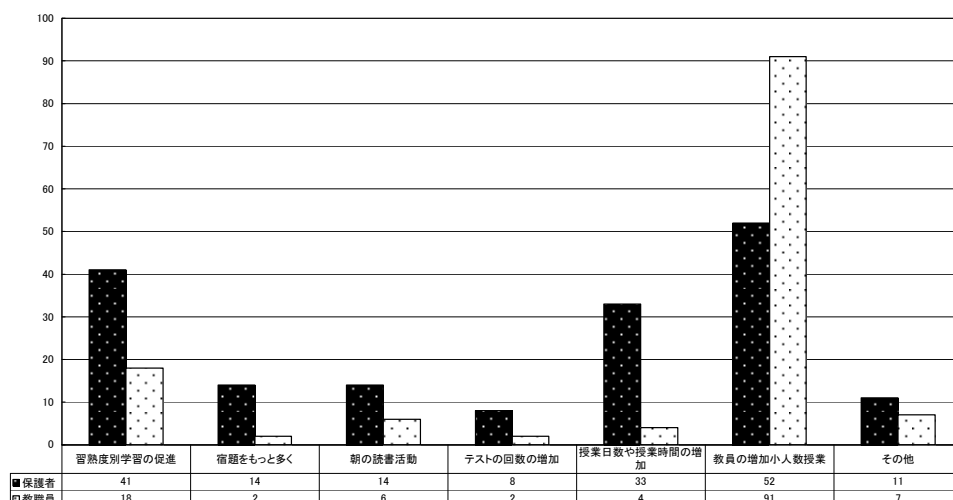
【問5】あなたは子どもの学力向上のため、学校や教育委員会に求めたい事がありますか。

%	ある	ない	わからない
保護者	52	26	22
教職員	73	16	11

【問6】前問5で、あると答えた方にお聞きします。あなたは子どもの学力向上のため、学校や教育委員会に求めたい項目は次のどれですか。

学力向上のために、学校や教育委員会に求めたいこと

1. 習熟度別学習
2. 宿題を多く
3. 朝の読書活動
4. テスト回数
5. 授業時間増加
6. 教員を増加し  
小人数授業
7. その他



- ・問5であると答えた教職員のうち9割が教員の増加に回答し、この傾向は中学の方がより強い。
- ・小学校の教職員は授業時間の増加を望む傾向がみられる。
- ・保護者の方が習熟度別の学習促進を望む傾向がみられる。

※その他記述回答より

- ・専科の配置・生活習慣をきちんとする取り組みを親・教育委員会・地域ぐるみで行う。
- ・ほめる教育・漢字学習・夏休み短縮。
- ・授業についていけない子どもたちへのサポート体制。

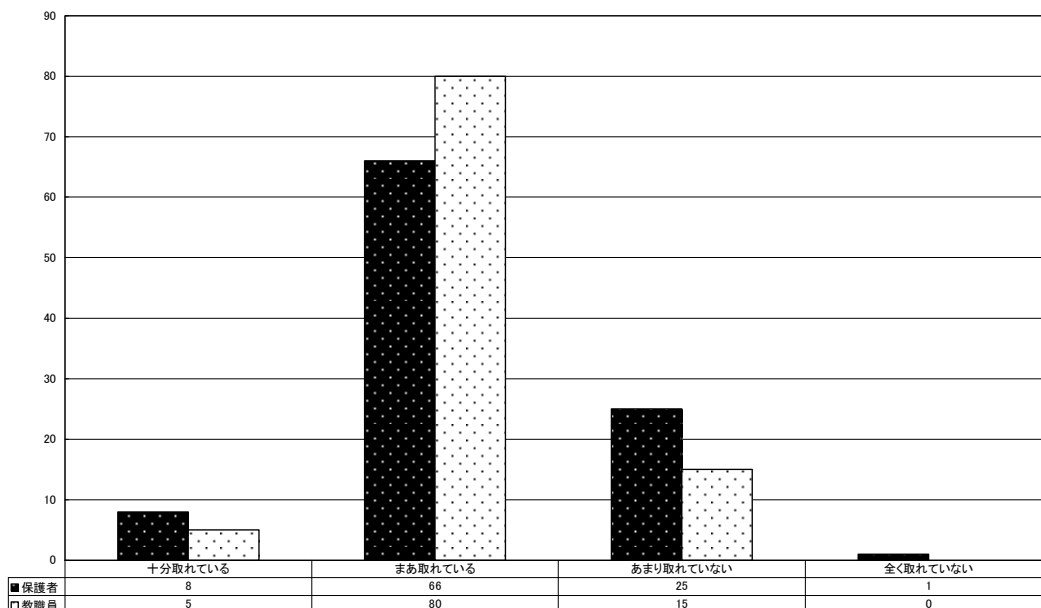
7】子どもの能力や学力に関わって、学校教育に期待する意見がありましたらお書きください。

- ・たのしく分かりやすい授業。(多数)
- ・一人ひとりの学力に応じて対応してほしい。(多数)
- ・子どもの個性を伸ばし活かしてくれるような教育をしてほしい。(多数)
- ・少人数できめ細かな指導を、心の教育の充実をお願いしたい。(多数)
- ・教員数を増やし手厚い教育活動が出来るようにしたい。
- ・将来の世界に生きて働く力、基礎基本も大切だが物事に興味関心を心から持てる力を育てたい。
- ・学校教育の良さは集団生活である。友達の考えを聞いたり質問したりして、学び合い活動が学力向上につながる、コミュニケーション力の育成。
- ・学力向上には時間がかかることですが、学ぶことのうれしさが実感できる環境・プログラムの設定。
- ・習熟度別学習に取り組んで欲しい。授業中が無理であれば補習などの取り組みをお願いしたい。
- ・子どもたちが学校や授業が楽しくなるような工夫や先生の対応に期待。
- ・自分の考えや意見を発表する場を多く持って欲しい。
- ・義務教育なので理解するのに時間がかかる子どもにも時間をかけ指導してくれることを望む。

## 2. 保護者と学校とのコミュニケーション（情報の共有）についての意識

1】あなたは、保護者と学校の間で必要なコミュニケーションが取れていると感じていますか。

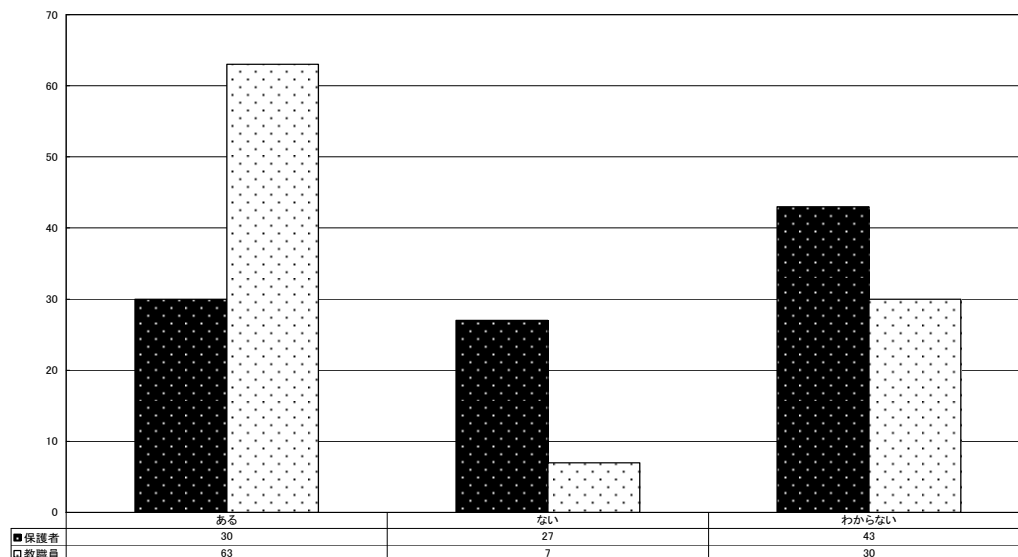
1. 十分取れている。
2. まあとれている。
3. あまり取れていない。
4. 全く取れていない。



- ・ 70%以上の保護者・教職員は、コミュニケーションが取れていると感じている。
- ・ 保護者の全国調査では「十分取れている」が6%、「まあ取れている」が50%である。

2】保護者と学校の間で、1)の問に対してギャップ（考え方・感じ方の相違）はあると思いますか。

1. ある
2. ない
3. わからない

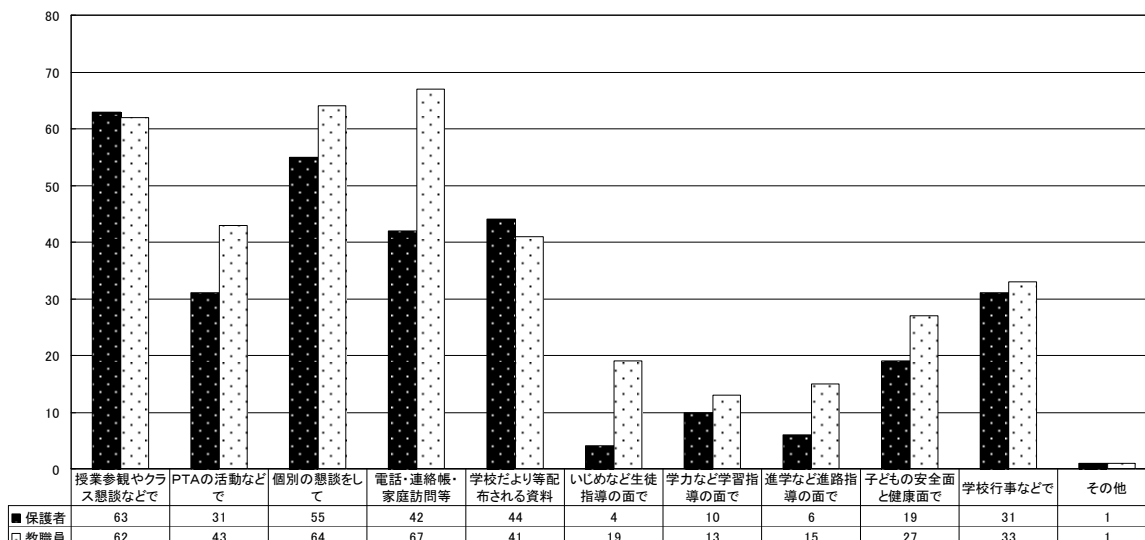


- ・ コミュニケーションが取れていると感じている保護者・教職員も、考えや感じ方にギャップあると感じており、教職員の方がよりギャップを感じている。

3】保護者と学校とのコミュニケーションについて、下記1～11の番号を選び記入してください。  
(番号はいくつでも)

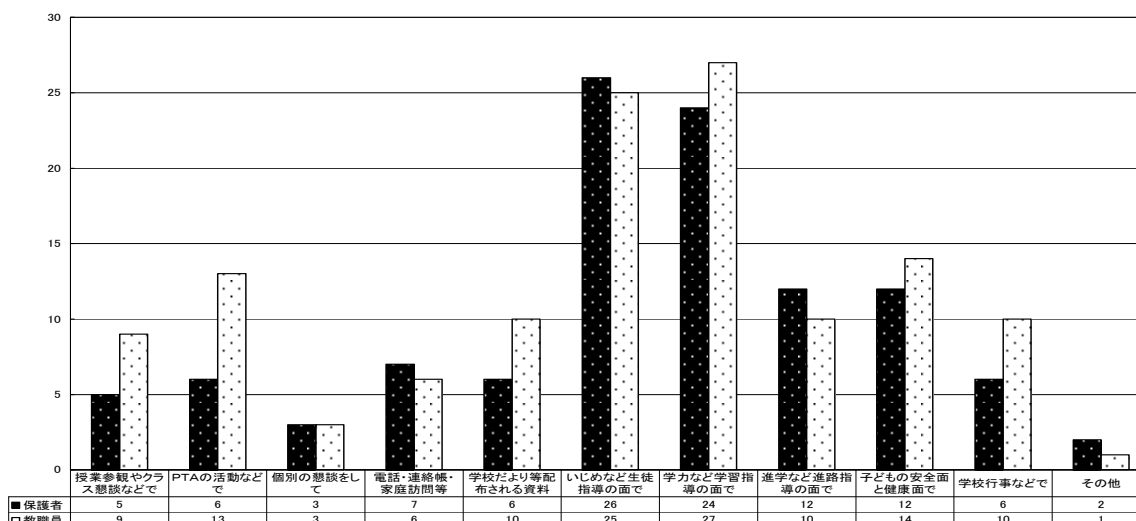
1. 授業参観やクラス懇談などで
2. P T Aの活動などで
3. 個別の懇談をして
4. 電話・連絡帳・家庭訪問等
5. 学校だよりなど配布される資料を通じて
6. いじめなど生徒指導の面で
7. 学力など学習指導の面で
8. 進学など進路指導の面で
9. 子どもの安全面と健康配慮などで
10. 学校行事などで
11. その他（学習の仕方・学用品・宿題の準備等）

(A) コミュニケーションが取れていると感じている事項。



- ・授業参観やクラス懇談などで60%（保護者全国40%）、個別の懇談50%（同30%）、電話・連絡帳・家庭訪問等・学校便り等配布物が40%（同17%）台である。
- ・直接顔を合わせる授業参観やP T A活動、学校行事、個別の懇談についてはコミュニケーションが取れていると感じる。

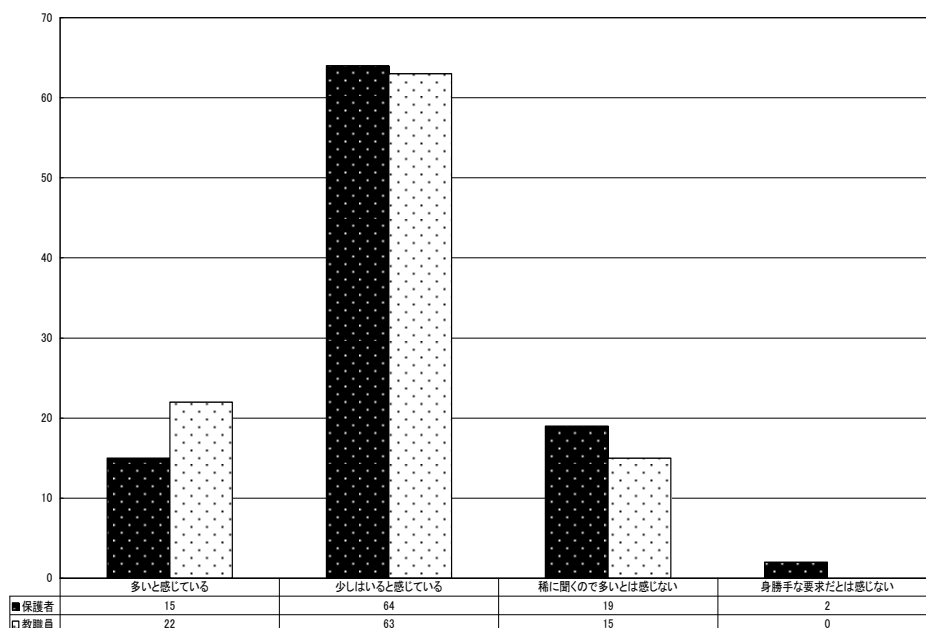
(B) コミュニケーションが取れていないと感じている事項。



- ・「いじめなど生徒指導面」や「学力など学習指導面」が20%（全国35%）台である。
- ・保護者、教職員ともに、いじめや生活指導、学習面、進路面などの悩み事に対して、コミュニケーションが取れていないと感じており、個別指導への時間のなさが表れていると考えられる。

4】「学校や教育委員会に対して、身勝手な要求をする保護者が多い」との声を聞くことがありますが、あなたはどのように感じていますか。

1. 多いと感じている。
2. 少しはいると感じている。
3. 稀に聞くので、多いとは感じない。
4. 身勝手な要求だとは感じない。

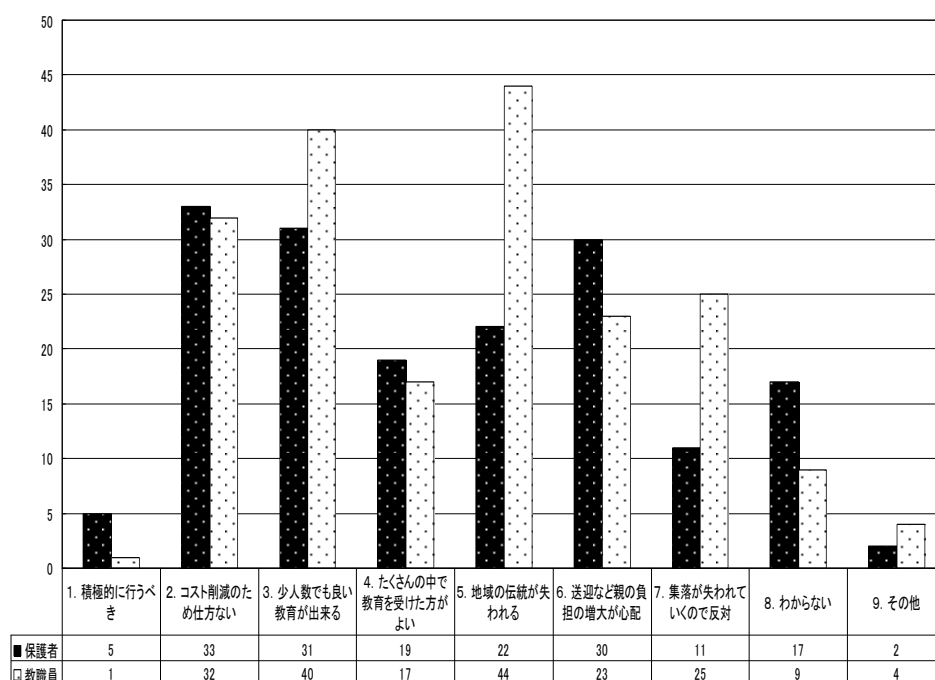


- ・ 多少、教職員の方が多いと感じる傾向がみられたが、保護者、教職員とも回答率の分布にそれほど差がなく、小中学校においても差が見られない。

### 3 学校の統廃合、学区再編についての意識について

1) あなたは小中学校の統廃合についてどうお考えですか。

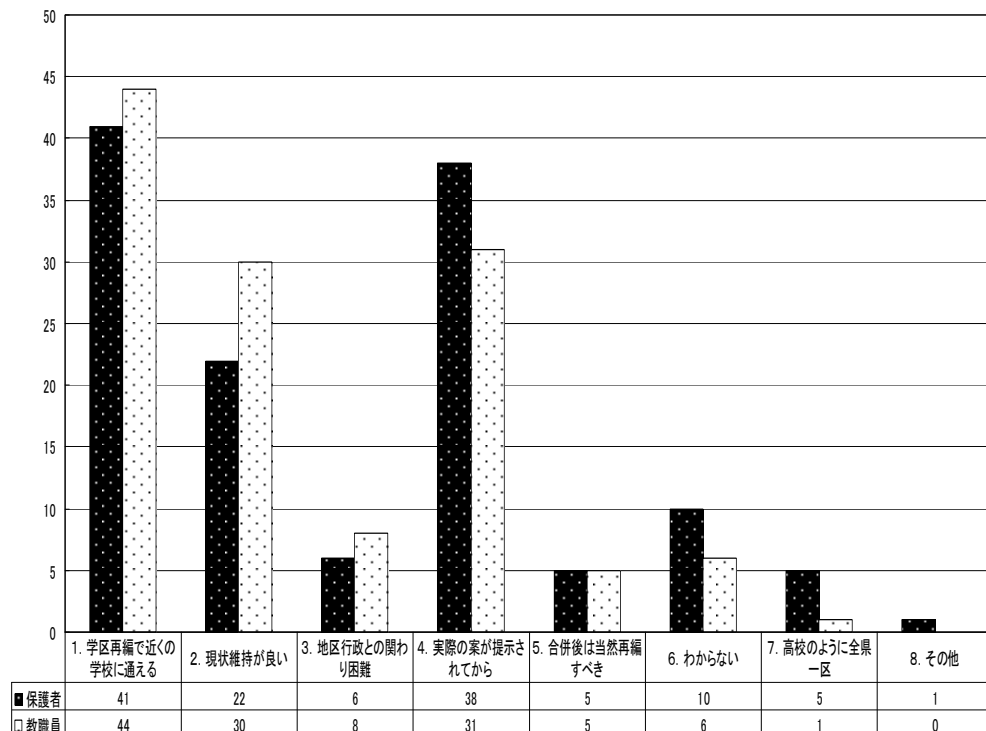
1. 行政コスト削減のため積極的に行う。
2. 行政コスト削減のため仕方がない。
3. 少人数でも良い教育ができるので反対。
4. たくさんの児童生徒の中で教育
5. 地域の活力や伝統が失われるので反対。
6. 送迎など親の負担の増大が心配。
7. 集落が失われていく可能性。
8. わからない。
9. その他



- ・教職員の方が地域への配慮が強く表れている。
- ・教職員、保護者ともに行政コストへの関心は高いと考えられる。
- ・小学生は少人数への回答、中学生はたくさんの生徒児童数への回答が傾向としてみられる。

## 2) あなたは小中学校の学区再編についてどうお考えですか。

1. 学区再編で近くの小中学校に通える。
2. 地域の伝統や風習現状維持が良い。
3. 地区行政との関わり方が難しくなる
4. 案が提示されないとわからない。
5. 市町村合併で当然再編すべき。
6. わからない
7. 高校のように全県一区にしてもよい
8. その他



- ・近い学校に通わせたい、親の送迎の負担についての回答が多い。

## 3) その他、統廃合、学区再編だけでなく新設などのについても、具体的なご意見をお聞かせください。

- ・児童の登下校で登校班を編成し、集団登校をしていることはたいへん子どもたちの成長になる。
- ・何でも統合することばかりが良いとは限らない。地域の核となる学校の存在、重要性を大切にしたい再編成をしていく必要がある。(多数)
- ・行政コストありきではなく、子どものため地域の事を考えたものであってほしい。(多数)
- ・子どもに対して先生の人数が少なく、統廃合して平等になるのならその方が良いのではないのでしょうか。
- ・子どもの教育が最優先されるべき問題で、コスト優先のためにすべき事ではない。
- ・個性重視や地域の伝統文化の継承と心豊かな人間の育成のためには強引すぎるほどの統廃合は逆行している。  
統合を全面的に否定してわけではないが個に応じたきめ細かい指導が必要であるという観点で適性配置を。(多数)
- ・行政コスト削減のために学校を統廃合することには、基本的には反対である。財政難の時代にあっても、教育福祉、に関わる予算はなるべく削減しないしてほしい。また、学校や学級の児童生徒数の適正規模はあると思うが、立地条件等やむを得ない事情がある場合は、少人数の学校でも特色のある教育をしながら教育的効果を上げられる。



- ・統合は仕方ないができるだけ現状に近い環境を確保し先生の目が行き届くようにしてほしい。
- ・税金を無駄に使わない統合の方法を検討してほしい。・十分に話し合いいい方向で決めたい。
- ・徒歩で通学でき、地域の人に守られて通学できる学区。
- ・学校は地域の核である、それが崩れると地域もだめになると子どもたちの地域への愛着も薄れる。

## \* \* \* まとめ \* \* \*

今回のアンケートでは、保護者と教職員の間で意識の違いについて意識して検証しました。

そうしたところ、資料にも随所に書きましたが、保護者と教職員では、子供たちの力についての理解というよりは、主眼を置く場所に違いを感じました。

保護者は子供の学力という、より数値化し易い部分に目が行きがちですが、教職員は子供たちの多様な経験不足や、総合的な人間力の形成に対して目を向けている傾向が強く見られました。

これは、教職員とのコミュニケーションへの設問や統廃合への設問でも同様にみられた傾向で、特に中学生の保護者に強く傾向が表れていました。高校受験が直接的な原因なのかは追加アンケート等の検証ができない現状では言及できませんが、メディアなどで報道される「学校は勉強する場所」という言葉に教職員のみなさんが、しっかりとした教育方針の元に指導をいただいている現状に安心感を覚えました。

しかし、記述回答のアンケートに寄せられたある保護者のことばには、「児童生徒が充実して楽しい学校生活を送れば、自然と学力も向上してくると思う。上からの目線ばかりでなく児童生徒の目線で指導してくれる人間味のある教員を増やしてほしい」のような生の意見も多々見られました。反面、「親の私たちがまずしっかりすることが大切だと思います、親が約束や時間を守ること、他人に迷惑をかけないこと、親が読書なり勉強をしている姿を見せること、子どもの話をしっかり聞いた子どもが興味を持ったこと、やりたいと思ったことには親は全力で応援する。このような一つ一つがひいては家庭の教育につながると思います」、「たのしく分かりやすい授業をしてほしい」、「家庭での教育力低下が子どものやる気のなさや成長に影響している。大人の生活自体から見直した方がよい」、「核家族化により年長者との会話がなし。」等々私たち大人が親としての意識の希薄さや親のゆとりや自信のなさに関する記述が多く見られました。言われてみると当たり前のことですが、とても貴重なご意見をいただきました。

なお、今回の発表は企画委員の思い入れや偏見が入り込んでいる可能性があります。

極力公平な目で検証を行いました。検証的な抜き出しアンケートを繰り返し行うなど、もっと掘り下げた精度の高い研究が今後のPTAの課題だと感じる面もありました。

ですから、今回のアンケートのもう少し詳細なデータや記述回答を全て山梨県PTA協議会のHPに掲載することとしました。年内にはアップロードしたいと考えますので、みなさんもこれと検討課題として各小中学校で話し合いをたくさんして欲しいと思います。

それこそが、今回のアンケートに表れた子供たちへのアプローチギャップを解消する手段であり、PTAの存続意義であるとも考えます。

最後に、企画委員としてこのアンケートに携わることができ、原案作成、集計、考察を通じて、学校運営や保護者の在り方について、大変勉強になりました。

みなさまのご協力のおかげを持ちまして無事アンケートが終了できましたこととお礼申し上げます。まとめいたします。